

# 「中般若町北浦」ありきの候補地選定？

## 3月議会、党議員団の質問で浮上

### 市民参加は名ばかりか

2月初めの2市2町の首長会議は、2年8ヶ月間の混迷の責任をあいまいにしたまま正式な候補地・犬山市池野地区を凍結し、江南市が提案した候補地「中般若町北浦地区」を「江南市が責任を持って速やかに地元及び地権者の同意を得るものとし、地元同意が得られた時点で第1小ブロックのごみ処理施設の建設地とする。」との、全くスジの通らない会長提案を了承しました。

堀市長は施政方針で「全身全霊で取り組んでまいりたい」と表明し、3月から庁舎内に「対策室」を設置しました。

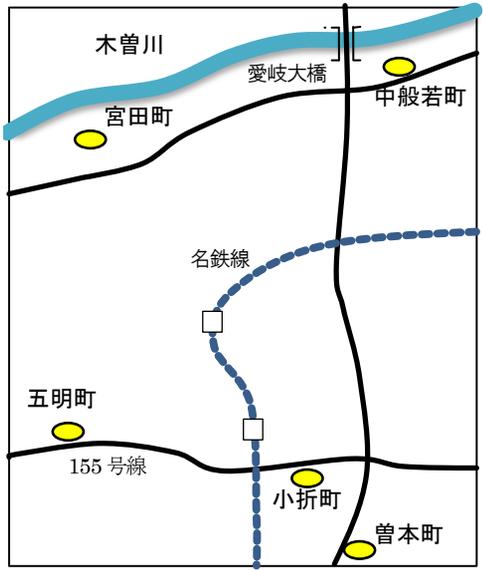
「市民参加のまちづくり」と言いながら、選定過程の情報を住民に一切公開せず、決めてしまった後で押しつけようとする市当局のやり方では住民の信頼を失うだけではないでしょうか。中般若町住民の過半数が反対署名を寄せたほか、隣接の扶桑町小淵区からも反対の意見書が提出されました。

日本共産党議員団は3月議会でのこの問題を追及し、その中で、「中般若町北浦ありき」の恣意的な候補地選定が行われた可能性が浮上しました。（詳細は裏面に）



北浦地内に建てられた押しつけ反対の看板

### 江南市内の5候補地



## なぜこの5ヶ所から？ 4haもの広い用地は不要です

### 市内5候補地の敷地面積

中般若町北浦地内	7.2ha
宮田町地内	4.1ha
五明町地内	5.8ha
曾本町地内	9.6ha
小折町地内	7.6ha

中般若町北浦地区を江南の候補地として改めて選んだ根拠として市は、昨年10月以降、市内5ヶ所（左地図）の用地について庁内プロジェクトチームで検討した結果、もっとも評点が高かったと議会へ説明しています。（評価の一部を裏面に掲載）

市当局は、北浦地区7.2haのうちの4haを建設用地にしたいと答弁。ところが、焼却炉150トン規模の江南丹羽環境管組合の敷地面積は埋め立て処分場を除けば1.8ha、450トン規模の一宮市で4haです。236t規模を計画中の2市2町で、はたして4haもの用地が必要でしょうか。

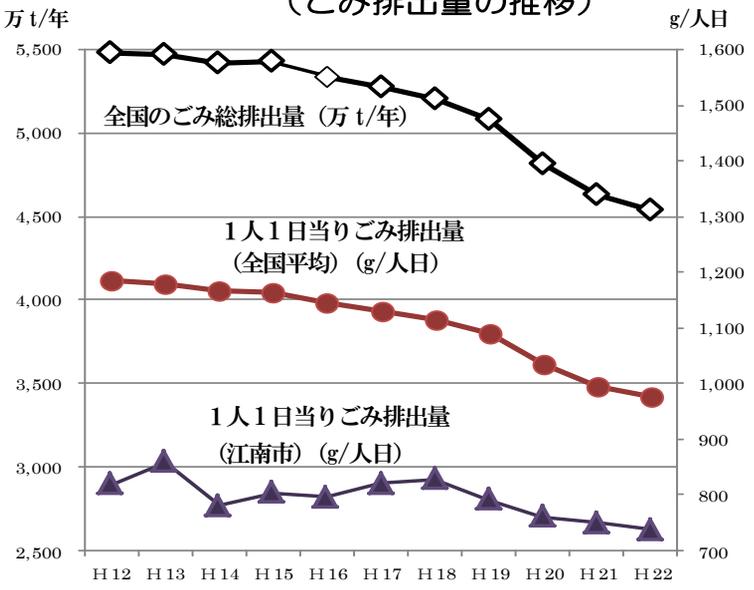
ごみを減量して規模を縮小すれば、もっと狭い用地で足りる。選択肢は5ヶ所どころか、江南市内においても2市2町の範囲ならさらに数多く存在するのではないのでしょうか。

## 236トン規模は明らかに過大！

### 新施設計画のいちばんの基本

## ごみ処理基本計画の縮小・見直しを

ごみは減っているし、さらに減らせます  
（ごみ排出量の推移）



環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等（平成22年度）について」江南市「清掃事業概要」より。ただし江南市の1人1日当たりごみ排出量は集団回収量を含みません。

2市2町の広域化実施計画は、日量236トン規模の焼却炉をつくる計画です。2008年度からの10年計画は、4首長会議の混迷で一步も進まないまま5年が経過しました。

236トンは、災害ごみ、すでに資源化している剪定枝、焼却の必要がなくなるし尿汚泥も焼却ごみとして計算した規模です。これらを除く2011年度のごみ量ならば日量約200トン規模に。さらに生ごみの分別、事業系ごみの減量などに今後取り組むことによって一層小さな炉にし、敷地面積を縮小できる可能性が出ています。

市町のごみ処理基本計画と広域化実施計画は、「どのような規模の・どのような施設を建設するのか」「だから、どれほどの敷地面積が必要か」という、新ごみ処理施設建設における最も基本となる計画です。この基本部分が実態に合わず過大なことがはっきりした以上、このまま突き進むのは止めるべきです。市民全体で議論し、ただちに基本計画の縮小・見直しにとりかかるべきではないでしょうか。